

「ブドウから広がる、私の農業の物語」



山岡 樹 (30 歳) Uターン
(内子町)

1 就農の動機・理由

実家が兼業農家で、幼少期から農業に興味があり、大学卒業後は種苗会社に就職。会社都合による退職を機に、地元で農業を始める決断をし、内子町で2年間の研修を受け、令和3年に就農した。

ハンマーナイフ 1台
バックホー 1台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和10年)
労働力	男1人(本人) 女1人(母) パート1人	男1人(本人) 女1人(母) パート1人	男1人(本人) 女1人(母) パート1人
経営耕地	樹園地 72a	樹園地 55a	樹園地 65a
経営内容	ブドウ 72a	ブドウ 55a	ブドウ 35a ユズ 30a

○農業用施設
農業用倉庫 1棟

○主要農業機械
スピードスプレーヤー 1台
軽トラック 1台
運搬車 1台
乗用草刈機 1台
刈払機 1台
動力噴霧機 2台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県内子町
職歴 種苗会社(生産)
就農研修歴
エコファームうちこ
(R1.4.1~R3.3.31)
就農年月 令和3年4月

(2) 就農時の思い

借り入れた農地のうち、ブドウの成木園は、研修先と異なる品種、仕立て方で栽培に自信が無かったが、試行錯誤を繰り返しながら徐々に慣れていった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

町内の研修施設「エコファームうちこ」で、ブドウを中心に2年間の研修を受けた。研修先では、栽培管理だけでなく、梱包や出荷作業など、販売に至るまで幅広い経験を積ませていただいて、現在の販売形態に近い実践的な内容を学ぶことができた。

(2) 資金の準備

研修中や就農後は、生活費や運転資金を確保するため、県や町と相談して新規就農総合支援事業を活用した。ま

た、新たに借りた農地に設置するブドウ棚については、日本政策金融公庫と相談し、青年等就農資金（融資）を活用した。

(3) 農地・住宅の確保

住宅は実家で家族と同居している。
農地は町の農業委員や親の紹介もあり、休耕地とブドウ成木園を確保することができた。

(4) その他苦労したこと

借り入れた農地が広く、ブドウの管理が行き届かないため、現在はブドウの面積を縮小し、ユズの栽培面積を拡大している。

また、現在、約 5 名のパート・アルバイトを雇用しているが、今後は雇用者の定着率を上げて、パートの雇用を増やしていきたいと考えている。

5 農業経営の特徴

ブドウの販売は農協を通さず、個人で直売所や EC サイトを活用して行っている。メインの品種はピオーネで、その他にもシャインマスカットや瀬戸ジャイアンツも栽培している。繁忙期にはパートやアルバイトの助けを借りつつ、基本的には一人で管理できる範囲で農業を行っている。

6 これからの夢

売上 1,000 万円、所得 600~700 万円を達成するため、品質と収量を兼ね備えた収益性の高いブドウ生産を目指していきたい。

7 成功したキーポイント

ブドウは成木になるまで約 5 年かかるため、就農 3 年目に比較的条件のよいブドウ成木園を借りることができたのは、収入面で非常に大きな助けとなった。ま

た、内子町青年農業者協議会では、同世代の農家と交流し、話すことで気分転換にもなり、間違いなく力になっている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は人々の生活に欠かせない一次産業であり、自分でつくったものを売ることができる点で、やりがいは非常に大きいです。しかし、最初は収入が安定せず、厳しい時期もあるため、その点を覚悟しておく必要があります。

また、ブドウを購入してくれたお客さんから「今年も美味しかったよ」と感想をいただけることが、今のモチベーションに繋がっています。

○ 指導機関からのひとこと

山岡さんは、研修時からどんなことにも熱心に取り組み、着実にステップアップしている姿が新規就農者の模範となっています。また、青年農業者組織活動にも積極的に参加し、地域の人のつながりも大切にされていることから、地域農業を支える人材として非常に頼もしいです。今後も活躍されることを期待しています。

執筆機関

八幡浜支局地域農業育成室
大洲農業指導班
電話番号 0893-24-4125



ブドウの剪定作業